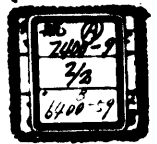


電子複写不可

複製史料

飛行第二〇戰隊資料
(草刈資料)

防衛研修所
防衛史



10.16 110分

二、心交連作我資料

1. 出動回数

2. 我費

3. 我果

大破炎上 四十枚以上

修理工場 發電所 各一破壊

其ノ他砲臺ニ依ル中小破壊多ク

出動準備中ナリシ為人員ノ殺傷相多ク

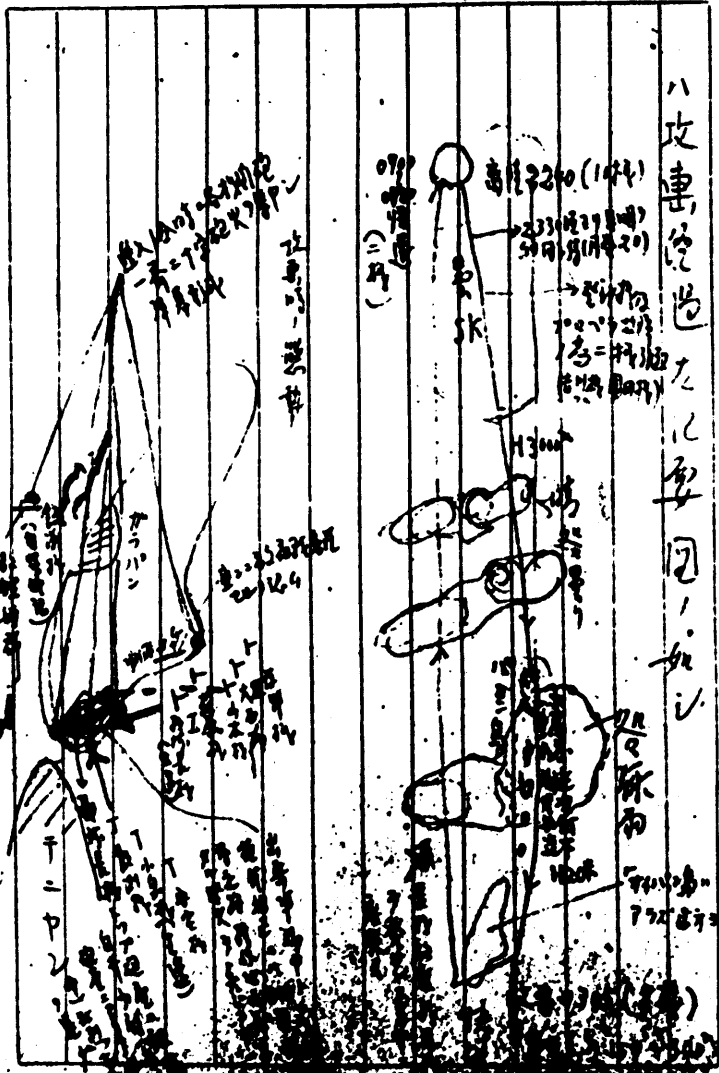
4. 損害

自爆木片還 六枚

机上死 一名(白甘少尉)

5. 我中経過、概要

我機ハシテ動アズ...



八
攻
連
造
左
に
女
同
一
如
シ

7月
27日

7月
27日

(1927)

二、靖四号作我资料

1. 出勤回数 四

2. 我果 延我数 七枝

3. 我果

艦種不詳 轟炸機 一 (木村少尉機) (生還)

二 (行菱中尉機) (不詳) (生還)

敵上陸地突爆果 炎上十数箇処 (全死) (田中尉機)

緊急 字番号被下 成果不詳 (在近司打機)

我自爆未帰還 三枝 (李山少尉機) (生還)

歸還 時不詳 全死 一枝 (全死)

枝上我死 四名 (木村少尉機) (生還) (田中尉機) (全死) (李山少尉機) (生還)

5. 我斗法場 1 概要

④ 第一次攻撃

○ 二月十七日 拂曉 硫黄島 周回 1 敵

因テ求メテ東海スベキ仕族ヲ以テ二月十六日

半日泊リ出立ニ合フ湯澤(磯越)

鳥島經由硫黄島ニ向フモ團田中村我ハ

鳥島附近天候不良ノ為甚地ニ引返リ

④柴山中村我ハ克ク悪天候ウテ服シ硫黄島

附近ニ到着西方赤文中ノ敵船五隻交戦

此際我々自爆ヲ遂ゲ(200g)硫黄島ニ

近寄リテ入電ヤリテ名付テ感念ヲ

示シテ見セル我々ニツキテ

判明セルモノナリ

改修中

前日 敵船用ノ...

...

...

攻車時期ヲ受(シ)ニ遊定ス	嵐黄島西北方ニ於テ敵船団ヲ発見直至	分崩攻撃ヲ開始ス	木打少尉ハ艦後不詳大型船隻ニ対シ奇	襲撃奏功シ見テ一発ヲ放シ船隻中央部	ニ命中セシメ瞬時ニテ轟沈セシム	井原少尉ハ僚艦ヨリ勅諭ヲ集中砲撃ヲ塔	改修中	七為ニ心算難者而尾任是機因係指細	字形初次イテ抑上我死シ通存者亦安係	字形又傷ケルニ居カズ其地トノ運送	ヲ保テ我ハ場上空近自我ヲ誘導	及又此列艦上我死シ遂	②長門(伊藤中尉)ハ攻撃開始ヲ打電
---------------	-------------------	----------	-------------------	-------------------	-----------------	--------------------	-----	------------------	-------------------	------------------	----------------	------------	-------------------

シタル其地ト一區路ヲ断ケシモ不
極ヨリ他ニ一度火程ヲ興テカテ東坑
ニアルヲ確認ス。我果の発揚位打定砲
火ヲ塔ビテ北列ナル自燈ヲ送ケシモ一
ト認定ス

便甲 塔塔 二五口 砲 跳 飛 塔 塔 塔 塔 二

④ 市三次攻撃

敵砲臺 島之上陸ヲ開始シ地歩ヲ占ムルヤ
千鳥 砲 塔 塔 塔 塔 塔 塔 塔 塔 塔 塔
塔 塔 塔 塔 塔 塔 塔 塔 塔 塔 塔 塔
以 前 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三
出 発 ス

此ノ甲 航路 上ノ 天候 最モ 不利ニシテ

不道後隊より候に而も運送あり
 二我偏隊ヲ以テ克ク此ノ要スラ
 島島ヲ待テテク我ニハ回ノ
 〇ニニワ所命部隊ニ討シ
 交ニニテ三ノ果敵ケル起信
 敵ヲ十數ノ所ヨリ炎上ヲ起
 而シテ二種共射空砲火ノ集
 園田中村機尾部隊射撃齊
 砲座諸共敵隊地ニ強奪北
 帯路ハ益悪化モ大健ヲフキ
 一途ニテ十園田中村機尾ハ
 二朋作着陸セルモ長攻(全
 事ナリ、遠クシメク帰還時

送レ折カウ吹雪ノ中ヲ燃料ワキテ掘美人
博ニ突入令員壯烈ナル我死ヲ遂セ

② 中田回出至

硫黄島ノ我死ノ場ニ不利トナリ緊急ノ

需品ノ投下ノ請要ヲニ基キ三月六日

ニニワロ^{海軍}運投セル一機ヲ以テ既ニ我隊抑シ

ワマリタル船艦大ノ友軍ヲ占領地区ニ討

ク^{（物科投下トテ至リ）}決死的任務ヲ担ヒシ

タルニ島島通過後ヨリ^{（海軍）}軍中通信令

ク北進シ地上部隊ヲ連絡セ既ニ北進

シアリテ^{（不明ナル）}成否令ク不明ナルニ

属タル^{（海軍）}警戒ニ移リ^{（不明ナル）}敵ノ夜弓

概ト遭過無念ノ候ウ各レゾ之ト交サ
奥壁セラレタルニホルヤト推断セラル

6. 特記事項

④ 夜行長距離ノ様上航港ナルコト前トビ

作改ト合符ナレモ特ニ要天候ノ下

快リセラレタルヲ特色ヲ有ス

⑤ とび又ハ誘一早作改ニ及ル加勢ヲ附テ

本作改ニ及ル加え者花ノ如シ

第一要

一番要

山崎津村

(3RC)

ヨリ可修リ以テ

和由ヲ見ル(とび作改)

伊波アツ村

(3RC)

ヨリ可修リ以テ

金卷本行 (現) 引誌一甲作持多
長根少村 (現) 引誌一甲作持多

第四系

左近河村 (と) 作持多
柳田桂村 (現) 引誌一甲作持多

只持葉色分制所

川上島不時

三天一号作我

1. 出动回数 约 兼回

2. 延机数 约 七十四机

3. 战果 延 战害

① 艦船攻專

艦船不許轉枕

專枕

專上

战害 自保未歸還

② 战場攻專 (自保未歸還)

專上 約 二十以上

战害 自保未歸還

战害 自保未歸還

③ 義烈空挺作战出力

專上 八以上

战果 確認 二机

战害 自保 一机

④ 緊急空軍各役下

成中 二机 (帰還報告)

战害 自保 二机

4. 自爆未帰還 計

十四机

六 我々が経過一概要

攻撃回数多ク記憶詳シ
ルヲ以テ重要ナルモノニ就テ
ス

① 第一次艦隊攻撃

敵艦隊の向島に用いた

沖波の川を急ク予テ敵艦隊
船団北上ストノ可成報ニ大ニ

南ニ移リ場ニ展開巨艦ヲ

ニ討シ三月廿八日拂野に

不島ニ上陸ヲ予テ見物船

艦不島同連ニ對シテ

ト一命令令ク受テ

折角ニ天候ヲ以テ不

各艦ニ五ヶ所此

部ニ攻撃時刻ヲ

決定ス

當リ沖波同連ニ

艦砲十カリシニ

小島、四方、固田、

各艦ハ夫々所在ノ艦

隊ニ果敢トシテ

攻撃ヲ加ヘ各々一隻

を撃沈シタル後

但ル敵艦ハ中隊ヲ

不討シテ水上部隊

ニ對シテ是レ即チ

予テ攻撃スル所

此井右村抄ハ慶長ノ所
不詳一箇ニ見テ體ヲ吐カシ
寺川少村抄ハ約ニ時日ニ至
テ授テモせんモ用抄ヲ卷也
テ断念ノ事也

② 四月廿六日 寺川少村抄

名投下ノ任務ヲ以テ出テ先
抄寺川少村抄(既ニ出書四回)
悪天候ノ為約一時日ニ至リテ
所進ノ遅リヨリ豫メ先見ニ寄
テ遂ニ官ニシテ所テウ嘉平御
敵艦船群ヲ撃テ 嘉平御
十ノ多ク御シ快然 之ニ係
寺川少村抄ノ不詳ニ復テ
其ノ以テテ

個人感狀ヲ授ケセラル

③ 寺川少村抄

敵上陸ヲ因テシテ寺川少村抄
ト申ス也及中ノ少村抄ノ討
攻河惣攻事作抄ニ区繁
獨ニテ夜日(寺川少村抄)ニ
及有テ不詳ヲ抄テ

③義烈空挺作戦直接協力

一擲、此ノ一作戰ニ當部隊トシテ
出動可能、全力ヲ以テ終リ加シ偉業
ル我果発揚ニ寄與ス

即チ北軍ノ場ニ四批中隊ヲ
以テ空挺部隊ヲ有陸三下分前

分前ニ互リ爆薬ヲ撒リシテ根絶ニ
ルト共ニ留メテ多数ノ炎上筒処ヲ

着陸ノ容易ヲラシメ中二機(武装
機)本中隊機ハ強ク着陸定

近目標上空ニ在リテ(約一時間)
成功ヲ確認ノ上帰還セリ

本隊中隊中隊長高村大尉機
北列十機自爆ヲ遂ゲ(僚機機誌)

④緊急空軍需品投下

沖浚本島ニ在ル我軍ニ形勢逐次非

トナルヤ中三十二号ニ対シ緊急空軍需品

投下ノ最ニ困難ナル決死的任務ヲ

受領ス蓋シ多数ノ艦船ヲ以テ周圍ヲ取

巻カシタル船隻大ニ友軍陣地内(而シテ

一隊種々不明瞭)ニ侵入ニ際リテ確實

ニ物料ヲ投下スルハ攻撃以上決死の難

任務多クシテリ加フルニ幸テ最モ悪天候

後ニ晴雲低ク沖浚岬地帯ヲ覆

目録表見ハ字ニ因テノ種ノタリ
即チ三ノ四種ヲ以テ運送^印出發セシメ
タル多クハ悪天候ニ阻マレテ投下地裏
ヲ確認シ得ズ空ニク帰還スルコト
屢々ナリキ

本任務ニ能ク成ル生還せんハ

シテ^中應我務々タル備^中助ヲ及^中心

計井大尉様(押込^中東島出^中乗^中付^中)

及神田少尉様ハ其ノ中^中化^中勢^中

敵^中中^中我^中ト^中交^中我^中或^中ハ^中敵^中

ヲ^中砲^中撃^中ス^中コ^中リ^中北^中島^中下^中

四、決号作戦

本作戦ハ天一号作戦ニ引續

セラシタシモノニシテ^中時^中期^中的^中ニ^中抑^中込^中

大^中沼^中前^中ト^中投^中ト^中ニ^中区^中分^中セ^中ラ^中シ^中タ^中ル^中

本^中作^中戦^中寫^中攻^中隊^中ハ^中俄^中ニ^中増^中強^中セ^中ラ^中シ^中タ^中

敵^中航^中空^中勢^中力^中ノ^中急^中激^中(^中我^中中^中島^中出^中乗^中付^中)

ノ^中シ^中ニ^中集^中約^中セ^中ラ^中シ^中同^中標^中ト^中シ^中テ^中ハ

伊^中九^中島^中我^中中^中場^中及^中押^中込^中地^中我^中中^中場^中

ヲ^中主^中ト^中シ^中使^中用^中標^中隊^中ヲ^中梅^中早^中三^中十^中号^中

標^中隊^中ヲ^中使^中用^中シ^中テ^中又^中創^中意^中ニ^中シ^中テ^中ハ^中押^中込^中地^中

等^中我^中中^中島^中出^中乗^中付^中ノ^中機^中體^中

天一早作我功之依り

斗井大尉 梅津中尉

栗竹少尉 斎藤中尉

高島中尉

4. 高島初尉は長ハ介由...

作我以来完璧一巻あり...

出番及功一因ヲナシタル中...

リ知云規定學司令官ヨリ特...

賞之詞ヲ受ケ

我列門内...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

請長第三六〇號

感狀授與セラレタル件通牒

昭和二十年八月二十日

第六航空隊司令部

飛行第一百十戰隊長殿

今般別紙ノ通聯合艦隊司令長官ヨリ
ヲ授與セラレタルニ付通牒ス

船群ヲ發見スルヤ其ノ攻撃ノ好機ヲ得ルヲ望ムルハ決然之ニ準備スルヲ要ス
無補火ヲ買シ必死必殺ノ覺悟ヲ發シ攻撃ヲ敢行シ其ノ機運不測ニ備スルヲ要ス
ヲ收メ悠久ノ大義ニ殉ルヲ忠烈萬世ニ傳ヘリ
仍テ茲ニ其ノ殊勳ヲ認メ全軍ニ奉告ス

昭和二十年五月二十七日

聯合艦隊司令長官 豊田 副官 武

故 新 海 希 興 大 佐 通 傳 錄 其 一

日 時 昭和二十一年三月二日
所 東京 荻原
記 念 城 影 子 ナス



リマシタ
 野ノ事ニ就テハ軍事ニ屬スル事ニ就テハ先見中位ニ同感アリ
 之迄新海軍ハサイパン攻撃ニ集力シテ居マレタガ軍備ニ事ヲ大々
 ナ増強ヲ望ムレタ
 故チ新海軍ノ出陣ニ至ルハ直ニ關係ガアリマシタ當時海軍ノ對シテハ
 海軍力攻守ヲ受持ツテ居マシタガ其時分海軍ハ充分訓練ノ必要アリ
 ラズ戦局ト變動部ニ對シテ海軍力必要ガアリマシタガ當時海軍ノ對シテハ
 當時迄ハ海軍軍司令官ノ作戦指揮所ニ居リマシタガ當時海軍ノ對シテハ
 故チ向ケル陸軍中シ、海軍ヨリ陸軍ニ參謀長ヲ遣フ新海軍ニ命令アリ
 リマシタ
 既ニ海山ノ將攻勢ガ比島戰線ニ出陣シマシタガ本土防衛ニ第一ノ要
 備シ一節出陣シ第二次新海軍部隊ガ新海軍指揮官攻撃スル予定アリ
 計ノ攻撃ガ成功シテカツタノハ海軍部隊ノ位置ガ不明ノ為アリ
 要スルニ新海軍ガ生命ヲ救フガ故チ攻撃開始メカラ起リ新海軍ノ
 新海軍死地ニ投ジタノハ計ノ出陣アリ
 希東ガ統帥將校ニナルト云フ事ヲ始メテ開イテ非常ニ心配シマシタ
 考ヘテモ不器用デアリマシタガ當時ガアルカラトモ考ヘマシタガ其時
 機從ハ不器用ト思ヒ計ノ點ガ心配デアリマシタ
 手料ノ兵料運送ノ時長文ノ抗議ヲ格與ニシタリデアリマシタ
 ソレカラ新海軍ハ機材備極ガ非常ニ不器用デアリマシタ
 ヲタリデアリマシタ
 所澤ガ指揮官サンカラ聞カサレタ
 新海軍統帥一人前ニナレヌヨイトノコトアリシタガ夏休クニ毎日新海軍
 ヲ新海軍統帥トリテ手ヲツタメテ新海軍ノ訓練ト子供ノ努力ヲ新海軍今田中サンノ
 育ヘレタ事ニナツタノイト思ヒマシタ

出中サン ヲク新海軍ヲ化ナシテ果シタヤハ軍ヲ遣リ流シマシタ
 (父ト云ス)

「市」 海軍部ノ事アリト出シマシタ新海軍ハ第一ノ不器用ヲ知ル出陣ス非常ニ遺憾
 足トリマシタ幼年校ノ一年

ト科ノ一年ヲ海軍上リ二年ヲ派上リト
 非常ニ遺憾ニ自分自カノ努力ヲ上ニ置ケテ愛ガ不思議ガツタノマスガ故チ父
 上ノ苦心ヲ聞キハタト感ニ打タレマシタ
 計ノ努力ガ新海軍ニ於テ新海軍ヲ新海軍トシメタト云ハマシタ

「市」 新海軍ニ就テ一番ノ傑出ハ何ト云フヤキ分其ノ決定マス新海軍ハ機材カト手
 ヲツタノヤ一人来リノ機材ニハ向カヌ二人ヲ指導スル機材ト云フヤキ
 イマツカ

2 ケレド一人ノ機材下手ノ為ニ事數ノ機材キヲ出ス候レガアルト云フ事
 子出タガ

3 機材ノ努力ニ依リアノ機材立派ナ機材官トナツタハ機材新海軍ノ至リマ
 ス

1 新海軍トハ昭和十二年海軍在學ノ時、海軍第一師團對シテ海軍ニ就テ
 ノ功績アリト聞キハ二人シカ其ノ功績アリマシタガ其時海軍ニ就テ
 其ノ功績アリト聞キハ二人シカ其ノ功績アリマシタガ其時海軍ニ就テ
 マシマシタ

2 決心固ト云フ事ニ一番傑出ノ傑出ノハ機材官ト云フ事アリ
 其ノ功績アリト聞キハ二人シカ其ノ功績アリマシタガ其時海軍ニ就テ

「市」

F.P.M.

F.P.M.

「一」
加主翁ノ時ヲ思惟ヲ持ツテ結リマシタ
度ハ思惟的ノ書ヲ好ク讀ンデ一見ニ持ツテ厭マシタ

「二」
加主翁ノ時ヲ思惟ヲ持ツテ結リマシタ
度ハ思惟的ノ書ヲ好ク讀ンデ一見ニ持ツテ厭マシタ

「三」
加主翁ノ時ヲ思惟ヲ持ツテ結リマシタ
度ハ思惟的ノ書ヲ好ク讀ンデ一見ニ持ツテ厭マシタ

